

みんなで地域づくり事業企画書

団体名	おやかカフェツリーハウス
事業名	森とアートフェスティバル（仮称）事業
目的・必要性	<p>背景</p> <p>Y・Y・NOWSON が展開する一村のアトリエには全国からたくさん の一村ファンが集まってくる。また、里山探検などを通じて海外からの 参加者も数多い。吉岡の自然豊かな森や里山の風景が外部の人から見ると とても素敵に映っているが、市内の住民にとっては見慣れた風景になっ てしまっているため価値を見出せないでいる。</p> <p>目的と必要性</p> <p>ツリーハウスをハード事業で整備することにより、より多くの方の目 に留まる機会が発生することは間違いない。しかしながら、ツリーハ ウスの設計や森全体の雰囲気をもどのように表現し、発信していくことが どんなに難しいと言うことかを理解しています。若手アーティストたちは、 自由な発想で作品を作る機械にはなかなか出会うことが出来ませ ん。であれば、この森の中で自由に創造性を膨らませることができ、ツ リーハウスのある森をデザインすることにより、若手アーティストが実 績を積む場を作ることができるのではないかと考えます。</p> <p>つくる場と、みせる場を同じ場所で開催することが必要だと考えてい ます。その理由は、作品を考え作り上げていく過程自体を表現の場とし、 より多くのひとと会うことによる発想力の増加が期待できます。</p>
内容	<p>若手アーティスト公募</p> <p>若手アーティストであれば誰でもいいというわけではなく、その人柄 や森に対する愛情をしっかりと理解できる人物を選定する作業が必要 となってきます。そこで、広く若手アーティストを公募します。公募に 当たっては、現地を実際に見に来てもらうことが必須です。ここから、 情報の発信が始まります。アーティストと言っても、様々な表現方法が ありますので、この森を実際に体感してもらうことを大切に考えていま す。</p> <p>泊り込みによるアート作品の制作</p> <p>隣接する一村のアトリエと蔵の図書館を若手アーティストの作品を 作る場とします。なぜ、泊り込みが必要かといいますと、ひとが集う森 にする必要があるからです。ガイドスタッフが地域住民との接点をつく り、寝食のサポートをします。また、小学生や中学生との接点を作るこ とで、小さい頃からアートに触れる機会をつくること出来ると考えて います。</p> <p>アートフェスティバルの企画および実施</p> <p>実際にアート作品を発表するイベントの企画から、準備や広報まで一緒</p>

	<p>に行います。共に作り上げていくことを体感することにより、より広く共感できるイベントになります。イベント期間中は、持込のテントによる宿泊も可能になりますので、地元の食材などを利用したフードも提供することができ、相乗効果が期待できます。若手アーティストと積極的に交流する機会をつくることで、また新しい発見や体験が可能となります。</p> <p>森林ツーリズムへの発展 この森で開催するアートフェスティバルに参加すること自体が森林ツーリズムに発展し、ここが旅の目的地となりえると考えています。</p>	
スケジュール	<p>時期</p>	<p>具体的な取組</p>
	<p>4～6月</p>	<p>若手アーティスト公募準備 インターネットを使用し、どういった条件のアーティストを呼ぶかを検討する準備 公募をし、面接および決定</p>
	<p>6～7月</p>	<p>フェスティバル準備期間 7月末から8月の開催へ向けたアート作品の制作 フェスティバルの準備及び広報開始</p>
	<p>8月</p>	<p>森のアートフェスティバル開催 記録用の写真及び映像撮影</p>
	<p>9～3月</p>	<p>ツリーハウス作り ツリーハウスを一緒につくる</p> <p>まなびの森自然体験プログラムづくり 若手アーティストと子どもを中心として、地域の方と、市内外の人と一緒にまなびの森自然体験プログラムを一緒につくるワークショップを開催します。森林ツーリズムにつながるプログラムを作成します</p>
役割分担の想定	<p>（団体の役割） イベントの企画及び運営 市内住民への周知と、参加者の確保</p>	
	<p>（市の役割）</p>	
<p>他団体との連携</p>	<p>NPO 法人おやこカフェ（イベント企画） Y・Y・NOWSON（インバウンド協力） おうちプラス+（参加者募集協力） 千葉県冒険遊び場作り団体（遊び場作り協力） 蔵の図書館（本を使ったイベントの連携） ちば〇〇部（広報協力） 東京情報大学（ボランティア協力） 植草学園大学（自然体験プログラム作成協力）</p>	

<p>期待される成果</p>	<p><u>自然豊かな四街道市のPR</u></p> <p>高齢化により耕作放棄地が広がる農山村。また、地域の空家が増え続けていくことも行政が抱える課題です。近いところへの発信はアナログです。WiFiを整備することで情報発信力が高まります。若手アーティスト達が、この森でアート作品を表現することにより、自然豊かな四街道市だけでなく、デザインされた森や里山を世界に発信できます。</p> <p>いずれ若手アーティストの作品が注目され、この森が育てたアーティストと言うブランドが確立で切れば、あとは連鎖的にアーティストが集まり、さらに、人を育てていくと言うことが期待できます。これを継続していくことにより、アートフェスティバルの収入が森を守り続ける原資になりえます。</p> <p><u>空き家解消への期待</u></p> <p>まずは一村のアトリエや蔵の図書館、森の中に一時的に住んでもらいますが、高齢化が進む地域の空き家を安く借り受けることにより、若手アーティストが作品作りに集中できる環境を作ることが可能になります。</p> <p>豊かな自然、文化、産業等の資源を新しい視点で活かし、クリエイティブと情報発信によって、観光客を誘致し、観光事業の振興を図るとともに、人的、物的交流の活性化をもたらすことが期待されます。</p> <p>また、市内空き店舗に実店舗を出店し、起業のスタートアップにも寄与します。町全体がアートに包まれることにより、より活性化されることとなります。</p> <p><u>森のアートフェスティバル</u></p> <p>公募の段階から SNS 等を利用し、多くの人に知ってもらうことが可能です。この人数を述べ100人と見込みます。フェイスブックのいいねの数です。</p> <p>準備段階でも継続して周知しますので述べ100人。実際に開催するアートフェスティバルを7日から10日くらい開催しますので、現地に来てくれる人を一日約30人、延べ300人、SNS 等で周知される人数を900人と想定します。この人数は、一人が SNS 等で情報を発信したときに、その友達の中で3人に情報を伝えることが出来ると計算しました。</p>
----------------	--

備考

- 1 「役割分担の想定」のうち（市の役割）は、事業形態がサポート型にあっては、役割がある場合に記載してください。
- 2 「期待される効果」は、数値等を記載してください。